

## 第6回 史跡等における歴史的建造物の復元のあり方に関する ワーキンググループ

### 議事要旨

定期的な点検を行い、悪いところがあったら早めにメンテナンスを行うことで、鉄筋コンクリート自体は長期間使うことができる。

RC造建造物の寿命はいつまで持たせようとするかにあわせて段階的に設計できるものである。

RC造天守を管理する地方公共団体において、いつまで維持しようとしており、長期的にどのようにメンテナンスしていこうとしているか、また、実際にどのようなことに悩んでいるのかについて事例に基づく話が聞きたい。

RC造天守などの城郭建築物は元々なかったものなのであるから、老朽化対策を行うにしても、将来的にRC造天守などに対してどのような役割を求めるのかを明快にしておかなければならない。

模擬天守は、史跡の価値を正しく理解するという観点を有する復元基準では、ふさわしくないところ。ただし、現在これらが生んでいる価値などに鑑みると、今建っている建造物の老朽化対策に当たって、撤去すべきということにはならないが、その際には再現といえないものであることを正確に伝えるなど留意すべき。

例えば、漆喰などで外観を見繕って当時の姿を見せること、耐震的であるが故に長期的に建造物のシルエットを見せることなど、RC造天守の存在によって、どのような文化的・文化財的価値や技術がを残すことができるのかという点が明快にできるといい。